霊験あらたかな田無神社

# 日本の国土を守る 神様

田無神社の創建は、13世紀・鎌倉時代と伝わります。当初は現在の鎮座地より北へ1キロほど離れた谷戸の宮山に鎮座しており、尉殿権現と称しておりました。

時代は下り江戸時代になると、江戸城増改築に際して、添喰の原料である石灰運搬のために青梅街道が開かれました。これに伴い、幕府の指示により谷戸の住人たちは青梅街道沿いに移り住むこととなり宿場町として、田無の町の歴史が始まりました。寛文10年（1670年）に谷戸の宮山から尉殿権現の本宮が現在の地に遷座されます。

創建当初より級津彦命・級戸辺命をお祀りしております。この二柱は龍田大社や伊勢神宮・内宮の別宮である風日祈宮、外宮の別宮である風宮などでお祀りされる風を司る神様です。元寇の際に神風を吹かせ、日本の国土をお守りくださった霊験あらたかな神様であられます。

（細田　勇雄）

地域の平安を祈願して

## 森しんいち議会報告

立憲民主党の新代表が「泉健太さん47歳」に決まりました。新しい野党の船出に大きな期待を寄せたいと思います。

西東京市の12月定例会が始まります。今回、私が取り上げるのは、市内の歩道橋の安全性と維持管理、長寿命化についてです。設置から40～50年以上のものが約半数を占めている現状から、特に子どもたちが通学路として利用している歩道橋の安全性を中心に審議します。

## シリーズ〈8〉 労安 あなたにとって組合ってなんですか？

組合には専門部として労働安全対策部がある。安全ってなんだろう。辞書で引くと、「危なくないこと、安心していられる状態」と書かれている。私が思い浮かべるのは警察、消防、自衛隊等の安全を守るためにあり、危険が起きた時に活動する職業。起きてほしくない事態のために社会はどれほどの血税を注いでいるのだろうか。

重大事故の報道がなくなることはない。騒がれない事故は日々、身近で起こっている。「労災隠しは犯罪です」大手ゼネコンが垂れ幕などで掲げているスローガンがある。歴史をたどれば仲間の告発によって表面化した会社の信用確保ゆえの対応であった。しかしこれは重要である。安心安全は個人的なことではなく、社会的問題であることを表明している。働くことは社会そのものであり、それゆえ法律は労働基準法、建設業法、労働安全衛生法を制定し、労働者を守っている。

現場改善見学会

支部では現場改善見学会、労働安全講習会を開き、組合員の安全に対する意識を高めている。とりわけ現場見学会は仲間の従事する現場を回り、安全作業を確認し危険箇所を指摘するなど、訪問した側もされた側も学び点が多く、反省会での質疑は安全確保を具体化するものとなっている。

私たちの業界は3K（危険・汚い・きつい）と言われ、若者に敬遠されている。しかし職人は紛れもなくその環境の中で働いている。日焼けした顔、ゴツゴツした手、汗で汚れた服、先人たちの誇りはこの中で生まれたのではないのか。それゆえにこそ、安全は第一義に考えなくてはならない。職人の働き方に対する対価はあまりにも低く、社会を守る「住」は育たない。

（伊東　昇）